

子供たちの夢をかなえる教師への道

東京教師養成塾通信

【第21期 第5号】

発行日 令和6年6月26日

発行元 東京都教職員研修センター 研修部教育開発課

電話 03-5802-0318



第22期募集案内



塾通信バックナンバー

第8回講座ではTOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) を訪問しました。塾生は、これまでの講座とは異なる雰囲気の中、英語でのコミュニケーションを楽しみ、学びの雰囲気づくり等を学んできました。

教科等指導力養成講座（第8回）

実施日 令和6年5月18日（土）

【両コース共通】

■ 【体験】英語によるコミュニケーション (TGG)

【小学校コース】

■ 【体験】安全な実験（理科の授業づくり）

【特別支援学校コース】

■ 特別支援教育に期待すること

■ 作業学習と社会性の学習



【体験】英語によるコミュニケーションの様子

特別支援教育に期待すること



共生社会の実現に向けて

教育庁都立学校教育部 主任指導主事の講義を聞きました。
共生社会の実現に向けた教育的二ーズを把握し、「特別支援学校における特別支援教育」の具体について理解し、採用後、指導的役割を果たすための見通しをもつことができるよう、東京都特別支援教育推進計画（第二期）第二次実施計画の具体的な内容について学びを深めました。

友達同士の関わりを尊重する

社会自立に必要な事柄を総合的に学習する「作業学習」と、「各教科等を合わせた指導」の中に新たな指導の形態として東京都が創設した「社会性の学習」について学びました。

【塾生の声】

- ・「各教科等を合わせた指導」の中に作業学習と、自閉症学級を対象とした社会性の学習がある。特に、社会性の学習は、周囲との関係性で生じる困難さを様々な支援を行いながら改善・克服することが重要だと学んだ。
- ・社会性の学習ではソーシャルスキルや対人関係を学ぶことができるように考える必要があると学んだ。友達同士の関わりを尊重することをねらいとした授業を考えることが求められると学んだ。
- ・作業学習は適宜役割分担などを行うことで【協働の意識】をもてるようにする。作業学習は【職業に直接関係しない】ことも行い、働く意欲や態度を養うことも含まれる。

作業学習と社会性の学習





聞く側が「視線」を意識する

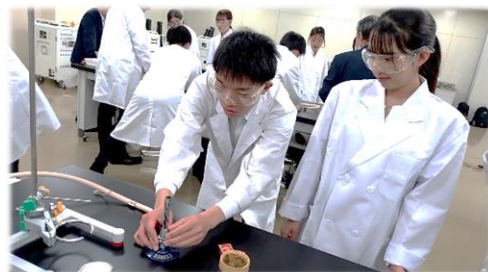
理科の講座開始時にコーチングの手法を取り入れた導入を行いました。今回は聞く側が視線を意識することで、話す側の「話しやすさ」にどのような影響が出るのか考えました。教員となった後の、児童や保護者との面談を意識して、取り組みました。

安全を第一に考える姿勢が大事

第4学年「水のあたたまり方」の単元で行う実験を体験することにより、理科室の使い方や、薬品の管理等、安全に実験を行うための配慮事項や児童の学びを深めるため条件制御の例を学びました。

【塾生の声】

- ・ 安全に取り組むために、なぜ危険なのか理由を伝えたり、もし事故が起きてしまった際の対応について事前に教師が準備したりしておくことが大切であると学んだ。
- ・ 実験結果や考察をまとめる際は、児童の考えを生かしながら次時への見通しを持たせることの大切さを感じた。
- ・ 教師になるために大切なことは【安全を第一に考える姿勢】である。実験で起こり得るけがや事故を未然に防ぐように指導する。
- ・ 児童が調べたいことや不思議に思ったことを「実験する」ことが大切だと分かった。



間違えても大丈夫

午後からは、お台場にある体験型英語学習施設TOKYO GLOBAL GATEWAYを訪問しました。子供が英語を話す雰囲気づくりや、話す単語の選び方など、English Speaker (ES) との対話を通して体験的に学びました。

【塾生の声】

- ・ 英語を話す自信はなく、TGGでの活動にも不安があった。TGGでは失敗してもいいということをESが繰り返しおっしゃっていた。そして、簡単な英語でコミュニケーションを図り、肯定的なりアクションで褒めてくださった。英語を楽しむということを体感し、少し英語に対して自信つけることができた。
- ・ 私が外国語の授業を行う際にも、「間違えても大丈夫」や「楽しい」と児童に思ってもらえるような授業づくりに努めたい。
- ・ 教師として「笑顔」や「ジェスチャー」を工夫しながら接することで児童がより楽しみながら英語を学ぶことができることを学んだ。

